

## 県央・林業部トピックス（5月号）

### 三瓶さくらの里づくり20周年記念式典が開催されました

令和7年4月6日（日）に大田市三瓶町で桜の里づくり事業20周年記念式典と、併せて三瓶さくら祭りが開催されました。式典では大田市長をはじめ、応援企業・団体や行政の関係者が集まり20周年のあゆみを振り返りました。三瓶桜の里づくりでは、平成17年に三瓶東地区一般農道が開通したことに記念して開始され、桜の植栽や管理、休憩所の整備といった事業を行っています。現在、桜の総本数はエドヒガンを中心に約6,200本となり、春には多様な品種の桜が楽しめます。近年では植栽した桜が大きくなってきたため、桜の間伐を行い、その材を活用したきのこの原木づくりといった、特産品の制作も行っています。

式典と同会場では今年で10回目となるさくら祭りが開催され、地元飲食店の出店や全長15kmのウォーキングイベントなど、大変な賑わいとなりました。

県では県民参加の森づくり事業（旧みーもの森づくり事業）を活用し、展望台にある木柵や四阿の設置を支援しています。本事業では水と緑の森づくり税を財源とし、緑豊かな森を地域自らのアイデアと参加で育み、次世代に引き継ぐことを目的とした活動に対する支援を行っています。例年提案募集を1月ごろに行っておりますので、皆様のアイデアをお待ちしております！



## 県央・林業部トピックス（6月号）

### 河川への濁水流下防止を目的とした森林作業道開設研修を開催しました

令和7年6月5日（木）に、川本合同庁舎にて「河川への濁水流下防止を目的とした森林作業道開設研修」を開催しました。

森林作業道は現地で伐採や植栽等の森林施業を実施するためのアクセス道として開設され、舗装等を省略した簡易な土構造が一般的です。一方で、排水や施工方法等が好ましくない作業道からは、泥等を含んだ濁水が現場周辺の河川に流出し水質を悪化させ、魚類等河川の生態系へ悪影響を及ぼすほか、開設した作業道の崩壊も懸念されます。本研修はこれらを防止すべく、被害の多発が見込まれる梅雨前に、管内の市町・林業事業体職員を対象に開催したところ24名の参加がありました。

研修は前後半に区分し座学形式で開催しました。前半では県央事務所職員が作業道開設に係る一般的な留意事項（排水方法や開設位置の基本等）を解説したのち、後半では濁水流下防止等を目的とした取組事例として、大田市森林組合が実施している排水やルート選定に係る具体的取組をご紹介頂きました。また、これら研修内容に基づき、参加した事業体各社からも自社の取組について活発な意見交換が図られ、大変有意義な研修になったと感じています。

本地域では今後も市町・林業事業体等関係各所と情報共有しつつ、コストと丈夫さ・周辺環境への配慮を両立した森林作業道の開設を進めて参ります。



## 県央・林業部トピックス（7月号）

北垣正宏氏が令和6年度緑化功労者にて  
林野庁長官賞を受賞されました。

北垣氏は大田市三瓶町で長年林業用苗木の生産にご尽力されたことが認められ、5月に埼玉県で開催された全国植樹祭での令和6年度緑化功労者表彰において、次席の林野庁長官賞を受賞されました。

北垣氏は昭和52年から苗木生産に従事され、優良苗木生産に向け自己研鑽を重ねてこられました。この度の受賞は、県内トップクラスの得苗率を誇る生産者として優良苗木を安定的に供給してこられた業績と、島根県林業種苗協同組合理事長を長年勤められたことなど、県下の苗木生産に大きく貢献されたことが評価されました。

北垣氏は年2回の地域の苗木調査時や、県内生産者からの個別相談を受けた際、率先して現地指導をされています。他生産者への指導は経験に裏打ちされた的確なものであり、普及員としても勉強になります。地域の生産者からも頼りにされる存在です。

今後も北垣氏の活動を微力ながら応援していきたいと思えます。



## 県央・林業部トピックス（8月号）

### 美郷町都賀行曲山国有林において合同安全パトロールが実施されました

令和7年8月26日に美郷町都賀行曲山国有林において、合同安全パトロールが行われました。これは林業関係の災害を防止するため、島根森林管理署、浜田労働基準監督署、林業・木材製造業労働災害防止協会、林災防島根県支部、松江水源林整備事務所、島根県林業公社西部事務所、島根県西部農林水産振興センター県央事務所が合同でパトロールを行うもので、総勢16名により、島根森林管理署発注の「曲山林業専用道新設工事」の現場を見回りました。

現場事務所では、熱中症対策として塩タブレット等グッズの備え付けやエアコンの設置などに取り組んでおられました。またAEDや快適トイレなども設置されており、災害時にはそれらの使用が可能になるとのことでした。

開設現場付近にも休憩 TENT や、扇風機、熱中症対策グッズが設置されていました。

労働基準監督署からの総評では、現場の整理整頓や熱中症対策が十分に行われていることが良かった点としてあげられました。また、重機の歩み板の使用方法や、現場での緊急連絡先の掲示方法について事例紹介がありました。

今回は、土木工事のパトロールでしたが、林業現場にも役立つものもあり、今後の普及指導に活かしていきたいと思います。



## 県央・林業部トピックス（9月号）

### スイングヤードを使用したフォーリングブロック式集材研修を実施しました

令和7年9月22日、24日に邑南町大林の伐採現場で「スイングヤードを使用したフォーリングブロック式集材研修」が行われました。県下に数多く導入されているスイングヤードを有効に活用するため、今年度からスタートした原木生産新技術等導入促進事業において、フォーリングブロック式集材が対象となったことから、邑智郡森林組合が主催（島根県西部農林水産振興センター県央事務所、島根県林業公社造林推進協議会共催）となり、中国林機(有)の住田氏を講師に迎え開催されました。研修には、県央事務所管内の森林組合、林業事業者等から14名の参加がありました。初日午前中に行われた座学ではフォーリングブロック式集材の仕組みや他の索張方法との違い、架設～集材の作業手順について説明がありました。午後からは現地に移動し、元柱・先柱（控索を含む）の設置と主索を張る作業を行いました。2日目の午前中に架設作業を終え、午後から集材作業を行い研修を終えました。

参加者からは「研修を受けたからといって直ぐに索張ができるわけではない」との意見がありました。一方講師からは「現地に応じた索張方法を選択できるようになれるとよい」との助言いただき、各種の索張り方法も学びつつ経験を積むことが大切だと感じました。



座学の様子



主索（SKL）の架設



控え索（GYL）の設置



集材作業

## 県央・林業部トピックス（10月号）

### 大田市でウッドコンビナート研修を行いました！

令和7年10月8日、大田市内の木材市場と製材所において、ウッドコンビナート研修を開催しました。

ウッドコンビナートとは、地域ぐるみで伐採から製材加工までの生産・流通の取組が拡大される仕組みのことです。この仕組み作りのため、林業事業者と製材工場で原木の安定供給協定を締結し、原木の計画的・安定的な流通体制を構築しています。また、製材工場の新設や規模拡大により製材能力の向上を図っています。

この取り組みは島根県農林水産基本計画にも位置付けられており、本計画の二期目（R7～R11）では、ウッドコンビナートの強化に向けて地域ごとに取り組みを進めています。

研修は、2部構成（現場見学、意見交換会）で実施され、国・県・市町の林業または建築担当部局の職員、ならびに森林組合の職員が参加しました。

第1部の現場見学では、大田市木材市場協同組合にて原木の産地や用途等について、また、竹下木材（有）では製材ラインや木材乾燥機等についてご説明をいただきました。

第2部の意見交換会では、建築物の木造化を推進する上での課題や各業種からの要望などについて、活発な意見交換が行われました。

今回の研修を通じて、関係者間の考えの共有や、地域内の原木および製材品の供給体制への理解が深まったと思います。

今後も研修を重ねることで、林業・木材産業関係者、建築関係者、行政の関係づくりを進め、公共建築物や非住宅建築物の木造化を更に推進していきます。



大田市木材市場



竹下木材（有）

## 県央・林業部トピックス（11月号）

### 島根中央高校で林業学習をおこないました。

島根県では、高校生に林業への親しみを持ってもらい、就職等の選択肢の一つとしてもらうため、高校での林業学習を支援しています。

県立島根中央高等学校では、2年生の「ふるさと学」という授業の中で林業学習を実施しています。令和7年度は、6月の林業や森林のはたらきに関する座学からスタートし、管内の伐採現場や木材市場の見学・農林大学校での体験実習を経て、林業という仕事について理解を深めてきました。

今年最後の授業として11月に地元の篤林家の山林で特別講義を実施しました。原木しいたけの生産方法や、高級木材として有名な絞り丸太の生産について学習しました。講義の中では、林業という仕事についてだけでなく、山菜や山野草、ハチミツといった山で仕事をする上で副次的に得られる山の恵みについての話をいただき、生徒からは「自然の中で仕事をするのがこんなにも楽しいんだということを知ることができました。」という感想がありました。

これからも、高校生に林業の魅力を感じてもらえるような講義内容とすべく、林業学習の支援を行っていきたいと思います。



## 県央・林業部トピックス（12月号）

### 大田市立高山小学校で「緑の募金」事業の完成式典が行われました

公益社団法人国土緑化推進機構では、学校環境の緑化を通じた青少年環境教育の推進のため、ローソングループが店頭募金等でお客様よりお預かりした「ローソン緑の募金」を活用し、学校敷地内の緑化活動などを支援しています。今年度は、大田市立高山小学校がこの事業を活用し、植樹のための地拵え、遊歩道の整備など学校林の整備を行いました。高山小学校では4.2ヘクタールの学校林（みどりの道）があり、学校の総合的な学習、PTA活動等にも活用されています。

この完成式典が高山小学校において、令和7年12月9日（火）に行われました。校内で式典が行われた後、児童たちはNPO法人もりふれ倶楽部の担当者から「何故、この樹木を植えるのか」と題したお話を聞き、その後、記念植樹を行いました。

記念植樹では、児童たちは斜面での植樹に苦勞しながらも、クヌギやコナラ等の苗木40本を一生懸命植えました。この活動を通して、児童たちの愛校心や故郷を大事にする心が生まれ、自然を大切にすることが高まりました。このような取り組みが多くの学校で取られるよう支援していきたいと思います。

記念植樹



植樹場所へ



植樹のお話



設置看板



## 県央・林業部トピックス（1月号）

### 県林業職員が苗木生産について実地研修を実施しました

令和7年12月18日（木）に県林業職員が苗木生産に関するOJT研修を実施しました。今回の研修では、大田市の苗木生産者に講師をお願いし、1年生幼苗の掘取から仮植までを体験させていただきました。

具体的な作業内容としては、①幼苗の掘り取り②苗のサイズごとに仕分け③一定の長さで根切り④サイズごとに仮植 といった一連の作業をおこないました。

普及活動として日頃より苗木の生産指導を行っていますが、実際に作業をする機会は少なく、今回、自分の手で行うことで作業時に注意すべきポイントや労務の大変さを実感できた貴重な体験となりました。また、生産マニュアルだけではわからない苗木生産についてのお話や、作業の効率を上げるひと工夫についてもうかがうことができ勉強になりました。

今後も林業職員として、研修や実務をとおして自己研鑽に努め、各生産者に対して適切な普及・指導を行うことで、林業の発展に貢献していきたいと思っております。



## 県央・林業部トピックス（2月号）

サルの隠れ場となっている「竹林」を伐採してきました。

～令和7年度島根県集落点検事業～

島根県では、今年度より第2期農林水産基本計画が開始されました。重点推進事項の一つである「鳥獣被害対策の推進」では、新たにニホンザルの被害対策が位置づけられ、対策の強化がすすめられています。

本計画では、環境省のガイドラインに基づき、行動や被害状況に応じてレベル分けされたサルの群れのうち、人里への依存度が高く被害が深刻な「レベル5」の群れをゼロにすることを目標としています。この目標達成に向けて、放棄果樹の除去、緩衝帯の整備や防護柵の設置、そして群れごとの計画的な捕獲など、複合的な対策を進める必要があります。

今年度においては「令和7年度島根県集落点検事業」を実施しました。本事業は、鳥獣被害対策に関する地域の合意形成を図り、個人単位の“点”の対策から、集落全体で取り組む“面”の対策へと発展させることを目的としています。事業はWMO（野生動物保護管理事務所）へ委託して実施しました。

事業を実施した集落の一つである大田市にある津洲集落では、地域住民とともに集落内を歩いて点検を行い、サルを寄せる原因となる放棄果樹や、隠れ場所となる藪の場所を確認しました。今年度は、地域内で大きな問題になっているメロンハウスの被害対策を優先し、隠れ場となっているハウス横の竹やぶの伐採などの環境整備を実施しました。

参加した住民からは「自分たちだけではここまで進めることはできなかった」「これで終わりではなく、次の作業についても考えていきたい」といった鳥獣被害対策に対して意欲的な声を聴くことができました。

今後も集落との関わりを継続し、ニホンザルをはじめとした鳥獣被害に強い地域づくりに向けた支援を行っていききたいと思います。



竹伐採中



地域内の放棄果樹に集まるサル